

令和6年度 市長と市民とのくつろぎトーク（介護保険事業者）実施報告

1 概要

(1) 目的

急激な高齢化による介護の担い手不足が叫ばれる中、現場の生の声を伺う機会として、多摩市介護保険事業者連絡協議会の協力を得て介護事業者から直接話を伺い、政策やまちづくりの参考とする。

(2) トークテーマ

- ① 多摩市の介護現場で感じる課題
- ② どのようにしたら多摩市の介護事業や街がもっと魅力あるものになるか
- ③ その他（自由意見）

(3) 日時 令和7年2月13日（木）10:00～11:00

(4) 会場 多摩市役所 第2庁舎会議室

2 参加者

- (1) 市長 ※事務局として秘書広報課長、市民相談係長同席
- (2) 多摩市介護保険事業者連絡協議会理事会理事、部会長、監事（15名）

3 対話内容

事務局から開催の趣旨等を説明の後、自己紹介をし、トークテーマに沿って市長が対話を進行了た。

4 参加者の意見・要望等 【次ページ以降参照】

意見・要望を分類し、「8050問題」や「通所介護事業の課題」など区分ごとに、主な意見としてまとめた。

主な参加者の意見・要望等

区分	内容
<p>8050問題 ※親が80代、子が50代を迎えたまま孤立し、生きることに行き詰るなどして、これまで見えづらかった地域課題</p>	<p>・8050問題のケースが最近増えてきた。他事業所の方と協力して進めていかなければいけない。ご本人の支援だけではなく、ご家族の支援がとても重要になってきたと強く感じる。団地に住んでいる方で、そういったケースが増えてきた。</p> <p>・介護をする側のご家族が長い間自宅に引き込まれていたというケースが最近、多摩市内でも増えてきたかもしれない。関連する課にも相談させてもらうケースが増えてきた</p>
<p>通所介護事業の課題 (送迎時の階段昇降が困難、駐車場の問題)</p>	<p>・階段昇降ができず、既存のデイサービスで対応できない方の相談を受けることがある。階段昇降機はあるが、階段の形態が様々で適合しないものが多い。階段昇降機で対応できない場合、人力であげるがスタッフの負担等が非常に多い。3階、4階となると、やはりかなり厳しい部分がある。しかし、外に出られないということを考えると、「やっていかなきゃな」という部分があるので、人員配置ぎりぎりの中で対応している。また、認知症の独居の方も多くいるためどう対応していくかが課題</p> <p>・訪問系のサービスとなると一番困るのが、車をとめる場所を探すのが非常に大変。近くにコインパーキングとかあれば使うが経費もかかる。また、パーキング自体ない団地のエリアが非常に多い。この辺りに停めていいですか？と確認してから止めたりはするが、それもやはり「停めないで」と言われてしまうこともある。前に包括さんから聞いたがそこには車が止められないから、そのエリアの依頼を受けてくれる事業者さんが少ないという話も聞いたりもする。多摩市は車で移動することが多い、坂も非常に多い、車を停める所から遠くなると非常に困る。永遠の課題で困る部分になっている。警察署への駐車許可の届出も、都度やらなければならない、許可書を出してくれ、許可証を出しても駐車禁をとられたという話を聞いたりもした。届出をする時の条件そのものが非常に厳しい。団地内は許可が取れないというのは、そもそもあつたりするためとても離れたところに止め、坂道を歩いて行く事もあつたりはする。その部分で介護車両の受け入れをしてもらえると止めやすくなるかなと思う。あとは、近隣の方にもご理解いただけるのかなというのもある。</p>
<p>介護サービスの質と人材の確保</p>	<p>・在宅で過ごされている身体介護を必要とする高齢者の方の、ヘルパーは男性ヘルパーでというわけではないが、圧倒的に男性が少ない。</p> <p>・募集をしてもヘルパーという仕事に魅力を感じなかった方が、入ってしまえば、結構、楽しいという方が多い。</p> <p>・ども人手は足りないが、特に訪問介護や在宅を支援していくところも高齢化、人手不足、その地域にどのぐらいサービスを入れられるかの人材不足。今後、人材不足と支援のバランスを、考えていながら街の活性化が図れるか、お手伝いができればいいのかなというのを今、感じている。</p> <p>・介護サービスが必要な方には必要なサービスを届けなければいけないが、一方で予防的な視点で介護度が上がらないようになるべく元気で過ごして介護保険を使わないで済むのであれば、それが一番ベストだと思う。そのバランスを市と協力しながらやっていけると一番いい。</p>
<p>認知症・高齢者についての理解</p>	<p>・市全体で認知症の方と認知症に限らず、高齢者のことを考える機会や、小学生、幼稚園生から高齢者になっても住みやすい街づくり、ということも必要なのでは、とアンケート結果を見て感じた。</p>
<p>ネグレクト・金銭搾取</p>	<p>・虐待ケースが増えてきているように思う。ご自身による緊急の依頼が年々少しずつではあるが、増えている傾向にあり、ネグレクトであったり、金銭搾取などはかなり件数が増えている印象</p>
<p>介護申請等に関すること (成年後見申請・介護申請)</p>	<p>・後見人が指定されるまで6ヶ月間かかると、キーパーソンが不在になってしまう。被後見人に何か緊急なことが起きた場合の引受人が施設となると、どこまで対応できるのか、など悩ましいこともあるが、まだ増えてきているところで受け</p>

	<p>皿として、しっかり働きかけていきたいと思う。</p> <p>・介護保険の申請をされる方で、癌末期の方がいる。申請した時はお元気なのですが、僕らや先生から見れば2週間後、3週間後はかなり状態が悪いとわかっている。しかし、認定調査が来た時は元気なので要支援の認定などが出てしまう。が、2、3週間後には寝たきりになってしまい、そこで再申請ということがとても多い。なので、そこを病状的なところをもう少し加味していただき、可能であればせめて要介護1以上を、癌末期の方であればつけるというような対応をしていただくと、再申請がされた際の再認定調査などの時間、手間がかかる部分のコストダウンなどもできるのではないかなと思う。ぜひ、ご検討をしていただきたい。というのが、実際の現場で僕が感じている部分。</p>
災害時の対応	<p>・地域密着の通所施設では、対象が在宅の方となる。例えば日中、独居の方、社会経験が乏しい中で依存が強いお互いの依存が強いお2人暮らしの方々、独居の方も増えてきている。また、生活保護の方で全く身寄りのない方もいるのが現状。また人材不足というところも共通している。特にそういった方々の、いろいろな特性がある方々の中で、その先に向かって考えているのは、災害時にどういった対応していくかという点。例えば帰宅困難者の方、同居されていても帰宅困難でやっと自宅に帰っても生活することができない方、引きこもりのご家族の方と同居している方、に対してどう対応するかということ。を、微力ではあるが、地域で協力できるところは協力をして、災害時に1日、2日でも持ちこたえられるような体制を作っていきたいというふうに考えている。少しずつだが、地域の方々との顔が見える関係性をこの2、3年、作り始めている。何か困ったとき、大規模災害が起きたときに対応できるよう、お互い顔見知りであれば、制度ではなくても協力できることがあるのではないかとということで今やっているところ。何かしらその仕組みづくりという部分を市の方でも、検討いただければと思う。</p>
その他	<p>・多摩市内に軽費老人ホームがあることを知らなかったという方が非常に多い。せっかく市内にある老人ホームなので、こういった施設があるよ、ということも積極的にお知らせいただく機会が、あればいいなと思う。軽費老人ホームは特殊な施設で、元気な方を対象にした施設ですが、偕楽荘と愛生園さんの2か所があるだけなので、うまく活用していただければと思う。偕楽荘では、待機者の方が非常に減ってきて、10、20人程度となっている。</p> <p>・地域により、非常に高齢者率が高い。生活保護の方たちにも同様にあるのではないかとというふうに最近よく感じる。また、生活保護の面ではヤングケアラーの課題も出てきている。</p>